

命の瀬戸際を伝える

金大附属病院の心臓・総合外科では、2005年と2006年の夏に心臓治療の最前線を子供に見せる学習会を開きました。今年も8月27日に開きます。対象は小学生。なぜ、小学生かというと、純粋な気持ちで医療を見てほしいからです。中学、高校生になると、お金や地位といったものを意識するようになります。そうなる前に、医療の現場を見たいのです。

外科医が自分の手で患者さんを治療するところを目の当たりにして、医療という仕事は素晴らしいと素直に体験してほしい。そのためには、偽物でなく、本物を見せなくてはなりません。生命の尊厳、命の瀬戸際のところを伝えるために、実際の手術を見せることにこだわっています。

子供たちは回診も体験します。患者さんの了解をいただいて脈を取り、血圧を測るのです。そのために小さい白衣を30着ほど買いました。白衣を来た子供たちが病棟に來ると、清涼剤になるんでしょうか、患者さん表情が生き生きとしてきます。

純粋なうちに医療を知ってほしい。
そして、本物の医師を目指せ。

金沢には「神の手」を持つと言われる心臓外科医がいる。その名は金沢大学附属病院の渡邊剛教授。日本で初めて心臓を動かしたまま冠動脈バイパス手術を成功させたスーパードクターだ。

最先端を走る外科医は患者に優しいだけでなく、子供たちに医療の仕事の素晴らしさを伝える活動にも生きがいを見出していた。



写真提供：医心

原体験に訴えたい

こうした体験は子供たちにとって大きなインパクトになるようです。30人の参加者のうち、9割は医療にかかわる仕事をしたと言います。

東京の中学生に手術のライブ映像を見せたことがあります

僕も発展途上人

僕も偉そうなことは言えませんが、基本的に医者には生意気な面があります。しかし、人を助ける仕事をするなら、人の気持ちに分らないといけません。

心臓外科医には辛くても頑張ることが出来る資質が求められますが、ストイックに仕事をしていけば苦労しますから、ある程度、人間の修練もできます。素直な気持ちで仕事をすれば患者さんからも先輩や同僚からも、さまざまなことを学ぶことができます。

僕自身も発展途上人と思っています。人間としても医者としても、まだまだ進化していかなければいけません。若い人たちも純粋な気持ちで頑張っている。本物の医師を目指す人が増えてほしい。そんな思いを込めて子供たちに本物の医療を見せたいと思っています。

※今年の学習会（北國銀行協賛）の参加者募集は終了しています。



心臓を動かしたまま手術する渡邊教授（左）

心臓手術のライブ映像を小学生に説明する渡邊教授（左奥）
＝ 2005年7月、金大附属病院



●わたなべ 剛

金沢大学附属病院心臓・総合外科教授、東京医科大学病院心臓外科教授、天才外科医が主人公のマンガ「ブラック・ジャック」にひかれて外科医を目指す。1989年金沢大学大学院医学研究科博士課程修了後、ドイツのハノーファー医科大学に留学。2000年金沢大学医学部教授に就任。専門は心臓血管外科、ロボット外科。毎週、金沢と東京を往復して執刀している。